

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

蝶形骨洞自然口の位置に関する解剖学的検討

2. 研究の対象患者

2023年～2026年の期間において、当院耳鼻咽喉科・頭頸部外科で副鼻腔CTを施行された方で、以下の選択基準を満たし、除外基準のいずれにも該当しない方を対象とする。

・選択基準

1) 成人(18歳以上)

2) 性別不問

3) 副鼻腔CTを施行された方

・除外基準

1) 副鼻腔手術既往を有する方

2) 鼻副鼻腔腫瘍、先天奇形などにより解剖学的構造が著しく変化している方

3) CT画像の画質不良により評価困難な方

4) そのほか、研究責任(分担)者が研究対象として不適当と判断した方

3. 研究の対象期間

2023年4月1日～2026年3月31日

4. 研究の概要

蝶形骨洞自然口は頭蓋底中央に位置し、視神経、内頸動脈、海綿静脈洞などの重要構造物に隣接している。そのため、内視鏡下鼻副鼻腔手術(Endoscopic sinus surgery:ESS)において蝶形骨洞自然口を安全かつ正確に同定することは極めて重要である。

しかしながら、蝶形骨洞は含気化や形態の個人差が大きく、自然口位置にも解剖学的バリエーションが存在する。このため、術中に安定して利用可能な解剖学的ランドマークの確立が求められている。

従来、上鼻甲介などが蝶形骨洞自然口同定の指標として用いられてきたが、鼻副鼻腔炎や鼻茸、既往手術などにより指標が不明瞭となる場合がある。本研究では、副鼻腔CTを用いて蝶形骨洞自然口とESSにおいてメルクマールとなり得る解剖学的構造物との位置関係を後ろ向きに解析し、蝶形骨洞開放に有用な画像解剖学的指標について検討することを目的とする。

5. 研究実施予定期間

2026年6月4日～2028年3月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

[研究対象者背景]: 年齢、性別、既往歴、手術名・手術日、診断名、撮影日

[CT画像評価項目]: 蝶形骨洞自然口の位置、自然口と各種解剖学的構造物との位置関係、蝶形骨洞の含気化様式、左右差の有無、その他研究責任者が必要と判断した画像解剖学的項目

7. 研究により得られた結果等の研究対象者への説明方針

本研究は既存の日常診療情報を用いる後向き観察研究であることを踏まえ、研究対象者の健康状態等の評価に関する知見が得られた場合でも、研究対象者(又は代諾者)個々に結果説明することはありません。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・ 研究責任者： 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 皆川亜衣吏

・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)